

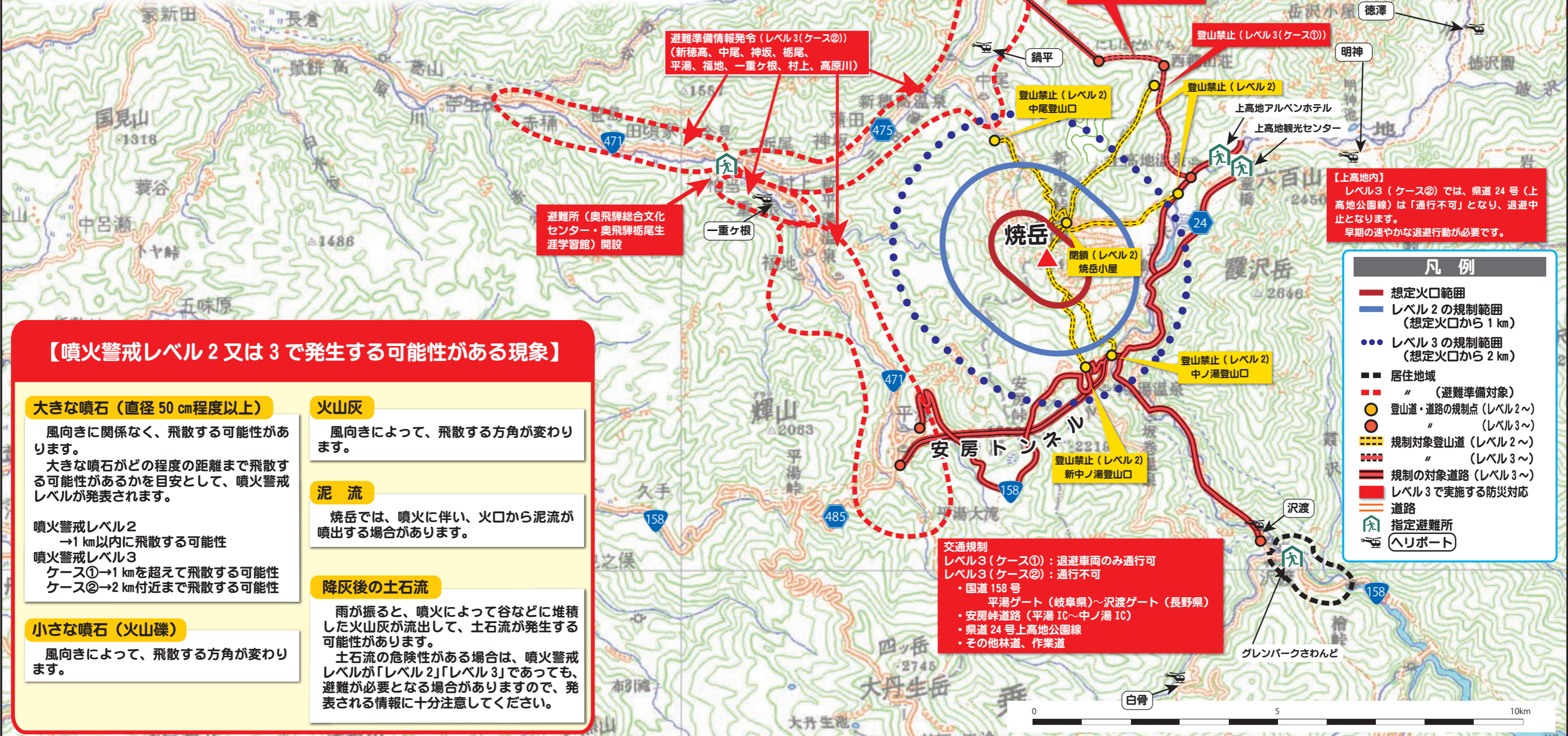
焼岳火山防災基本図

噴火警戒レベル2・3の場合

この地図は、焼岳が噴火し、気象庁から「噴火警戒レベル2（火口周辺規制）」又は「噴火警戒レベル3（入山規制）」が発表された場合に、国・県・市などの防災関係機関が「焼岳火山防災計画」に基づいて実施する防災対策を表したものです。

ただし、噴石や降灰の飛散状況によっては、警戒レベル3で実施するとされている防災対策の実施時期が早まる可能性もありますので、噴火時には、発表される情報に十分注意してください。

【北アルプス方面への入山】
＜岐阜県側＞
レベル3発表の場合、新穂高入山口（全方面）・笠ヶ岳入山口からの入山について、噴火の状況を見ながら全面的に規制を行う可能性があります。
＜長野県側＞
レベル3発表の場合、道路規制が開始され上高地内からの入山はできません。
【北アルプス方面からの下山】
レベル3発表の場合、麓では噴火の状況により全面規制が行われるため、特に登山客の方は別ルートでの下山の検討が必要となります。



避難準備情報発令（レベル3(ケース②)）
（新穂高、中尾、神坂、栃尾、平湯、福地、一重ヶ根、村上、高原川）

避難所（奥飛騨総合文化センター・奥飛騨栃尾生涯学習館）開設

運行停止（レベル3(ケース②)）
新穂高ロープウェイ

登山禁止（レベル3(ケース②)）

登山禁止（レベル3(ケース①)）

登山禁止（レベル2）
中尾登山口

登山禁止（レベル2）
上高地アルペンホテル
上高地観光センター

閉鎖（レベル2）
焼岳小屋

登山禁止（レベル2）
中ノ湯登山口

登山禁止（レベル2）
新中ノ湯登山口

【上高地内】
レベル3（ケース②）では、県道24号（上高地公園線）は「通行不可」となり、退避中止となります。
早期の速やかな退避行動が必要です。

【噴火警戒レベル2又は3で発生する可能性がある現象】

大きな噴石（直径50cm程度以上）

風向きに関係なく、飛散する可能性があります。
大きな噴石がどの程度の距離まで飛散する可能性があるかを目安として、噴火警戒レベルが発表されます。

噴火警戒レベル2
→1km以内に飛散する可能性
噴火警戒レベル3
ケース①→1kmを超えて飛散する可能性
ケース②→2km付近まで飛散する可能性

小さな噴石（火山礫）

風向きによって、飛散する方向が変わります。

火山灰

風向きによって、飛散する方向が変わります。

泥流

焼岳では、噴火に伴い、火口から泥流が噴出する場合があります。

降灰後の土石流

雨が振ると、噴火によって谷などに堆積した火山灰が流出して、土石流が発生する可能性があります。
土石流の危険性がある場合は、噴火警戒レベルが「レベル2」「レベル3」であっても、避難が必要となる場合がありますので、発表される情報に十分注意してください。

凡例

- 想定火口範囲
- レベル2の規制範囲（想定火口から1km）
- レベル3の規制範囲（想定火口から2km）
- 居住地域
- 避難準備対象
- 登山道・道路の規制点（レベル2～）
- 規制対象登山道（レベル2～）
- 規制の対象道路（レベル3～）
- レベル3で実施する防災対応
- 道路
- 指定避難所
- ヘリポート

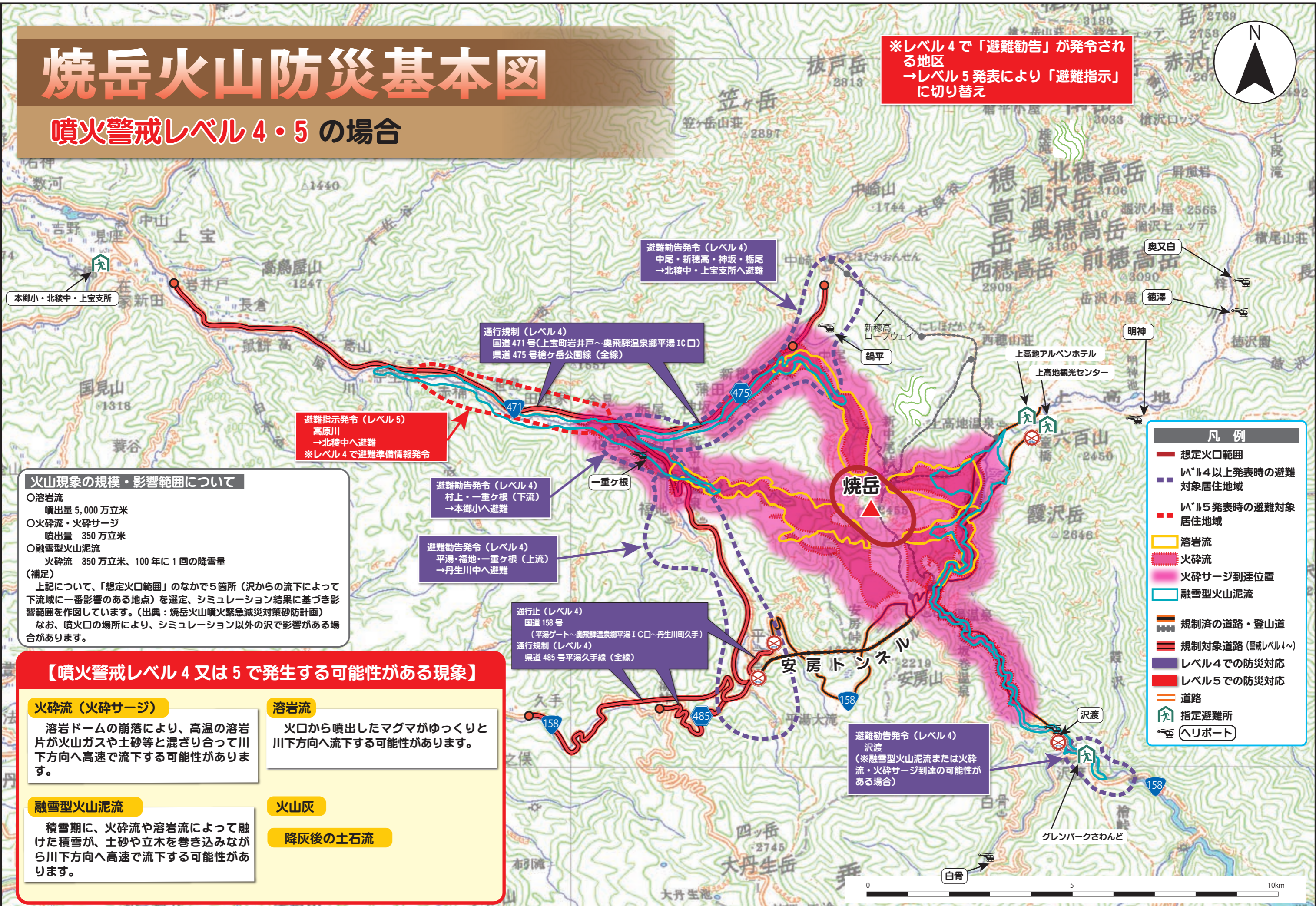
交通規制
レベル3（ケース①）：退避車両のみ通行可
レベル3（ケース②）：通行不可
・国道158号
平湯ゲート（岐阜県）～沢渡ゲート（長野県）
・安房峠道路（平湯IC～中ノ湯IC）
・県道24号上高地公園線
・その他林道、作業道



焼岳火山防災基本図

噴火警戒レベル4・5の場合

※レベル4で「避難勧告」が発令される地区
→レベル5発表により「避難指示」に切り替え



火山現象の規模・影響範囲について

- 溶岩流
噴出量 5,000 万立米
- 火砕流・火砕サージ
噴出量 350 万立米
- 融雪型火山泥流
火砕流 350 万立米、100 年に 1 回の降雪量 (補足)

上記について、「想定火口範囲」のなかで5箇所(沢からの流下によって下流域に一番影響のある地点)を選定、シミュレーション結果に基づき影響範囲を作図しています。(出典：焼岳火山噴火緊急減災対策砂防計画)
なお、噴火口の場所により、シミュレーション以外の沢で影響がある場合があります。

【噴火警戒レベル4又は5で発生する可能性がある現象】

火砕流 (火砕サージ)

溶岩ドームの崩落により、高温の溶岩片が火山ガスや土砂等と混ざり合って川下方向へ高速で流下する可能性があります。

溶岩流

火口から噴出したマグマがゆっくりと川下方向へ流下する可能性があります。

融雪型火山泥流

積雪期に、火砕流や溶岩流によって融けた積雪が、土砂や立木を巻き込みながら川下方向へ高速で流下する可能性があります。

火山灰

降灰後の土石流

凡例	
—	想定火口範囲
---	レベル4以上発表時の避難対象居住地域
---	レベル5発表時の避難対象居住地域
—	溶岩流
—	火砕流
—	火砕サージ到達位置
—	融雪型火山泥流
—	規制済の道路・登山道
—	規制対象道路 (警戒レベル4)
—	レベル4での防災対応
—	レベル5での防災対応
—	道路
	指定避難所
	ヘリポート